

# 北陸センター所長賞 受賞



坂井市立坂井中学校

3年 長崎 奏温 さん

作品名：「世界とのみえないつながり」

## ▽受賞のコメント

日頃から思っていたことを作文にして、国際協力機構の人々に自分の思いが伝わった結果だと思っていて、素直にうれしい気持ちです。わざわざ遠い地の日本にまで来て働くことについて何か理由があるのか考えてみて、この作文を書いてみようと思いました。これから色々な人に出会う上で、その1人1人の今までに何があったかをしっかり考えられる人になりたいです。

## ▽作品本文

僕は今まで海外に行ったことがありません。けど、僕は海外とのみえないつながりを日々、感じています。なぜかという、それは、僕たちが日々使っているものは、海外でつくられていることが多いからです。

僕が友達の家に行くときに通る道には、工場があります。そこでは色々な国の人が働いています。その工場にかけられていた国旗を見ると、タイ、ベトナム、ミャンマーと東南アジアの人々が働いているようでした。

僕はなぜ、わざわざ遠いこの日本に来てまで働く必要があるのか、とても気になって調べてみました。

調べたところ、ベトナムを例に挙げると、まず、親日的な感情を持つ人が多いようです。その理由は、ベトナムの独立に、日本の残留兵が役立ったことが大きいらしいです。

そして、もう一つの理由がベトナム事業に対する日本の支援だと考えられます。

現在、日本はベトナムの事業などに対して五兆七千億円もの支援を行ってきており、世界で2番目の支援額となっています。こうすることで、日本企業のベトナムでの活動に活発化し、ベトナムでの日本語人材ニーズが高まるなど、ということが多くなっているそうです。

このような理由があったのかもしれないと思った僕は、もっと日本を好きになってもらうために、もっと楽しく働いてもらうために、その工場を通るときに、必ずあることをしようと決めました。

それは、あいさつです。

あいさつをすることでした方もされた方も気持ちがいいし、なにより、世界とのつながりを実感できるからです。海外に行ったことがなくても、身近なところに世界とのつながりはあるものです。

初めにも言ったように、僕たちが日々使っているものには、海外でつくられたものも多くあります。つまり、僕たちが生きていくには、遠い国の誰かが働いて、その人も誰かの働きで生きていける。ということです。このように人は世界中とのつながりがあって生きていけます。知らない言語、見ため、文化で差別したり、遠ざけたりするのではなく、感謝をすることで僕たちは世界とつながり、この世界をよりよいものにしていけるのではないのでしょうか。世界とのみえないつながりは身近にたくさんあふれているのです。